

佐久市協働のまちづくり推進会議 会議記録（要旨）

日 時：令和6年10月31日（木）

13：30～15：30

場 所：佐久市役所 7階701会議室

出席者：佐久市協働のまちづくり推進会議委員7名（欠席3名）

事務局（広報広聴課長・広報広聴課職員・望月支所職員）

市民活動サポートセンター職員 2名

1 開会

2 会長あいさつ

3 会議事項

（1）佐久市まちづくり活動支援金の見直しについて

事務局：これまでの推進会議の中でまちづくり活動支援金についてご意見をいただきました。県の元気づくり支援金の動向も大きな進展がないことや、市の財政状況も踏まえ、今年度末での大幅な見直しは行わず現状を維持していきたい。しかしながら、これまでの経過から、補助率や支援金の上限金額だけではなく、申請や審査方法の見直し、概算払いの条件を明確化するなど、来年度以降も時間をかけて検討していきたいと考えている。重点項目の拡充、概算払いの明確化、広報について説明。

委員：継続性を高めるための伴走体制についてどのようになっているのか

事務局：市民活動サポートセンター（さくさぼ）で、相談や市民活動団体が活動を継続するために参考となるような講座を実施している。

委員：活用団体は財源などいろいろ課題がある。支援金を申請した団体は、さくさぼの面談を1回は必須にするなど財源について考える機会があった方が良いと感じる。

会長：推進会議で議論してきたことがいきていない。財政支援はむりでも、申請書の簡素化や審査方法はまだ変更できるのではないか。

事務局：今回の資料に掲載はないが申請様式や審査方法については、今後も検討していきたいと考えている。

さくさぼ：伴走支援について、市民活動団体によっては、事業の推進力が元々ある団体においては、さくさぼの伴走支援は必要としていない。伴走支援が必要な事業というとな一人で活動している、やり方がわからないなどがある。さくさぼでサポートはできるが事業の継続性という部分では、どんなにさくさぼが伴走支援しても難しい部分がある。市民活動団体の基盤や事業の内容もあるので、さくさぼが伴走支援すれば事業の継続ができるというわけではない。

会長：財政面ではないところはこれからも検討してほしい

委員：広報について、市のホームページをあまり見ない。市のLINEで配信する方が効果があると思う。

委員：SNSから情報を得ている子育て世代が多い。支援金終了後どう継続していくか、情報をどうやって発信していくかが課題。市が関わってもらえると効果があると感じる。

SNSが活用できるとよい。

(2) 市民活動サポートセンターの事業の中間報告について

ア 佐久市市民活動サポートセンター「さくさぼ」

運営受託団体：長野県 NPO センター

栗津センター長よりさくさぼの概要や取組について説明

イ 質疑応答

委員：さくさぼへの相談件数について、団体数はどのくらいか。

さくさぼ：相談は1回では終わらないが、100団体くらい。

(3) 意見交換

会長：さくさぼの活動計画について、進捗状況について伺いたい。

さくさぼ：協働の意識醸成について、事業計画でカフェさくさぼなどで取り組んでいるが、体感できる時間をどれだけ共有できるかがカギになってくる。場の回数を重ねる、参加者の層を広げることが大事だと感じている。行政をどうやって巻き込んでいくか。佐久市の協働のまちづくりを推進していく上で、行政と民間の協働を進めていく場を重ねている。

関係機関とのネットワークの構築について、多機関連携交流会を行っている。具体的な案件があれば個別に交流している。本質的な協働に向けた連携について理解してもらうこと目指しているところ。

区・地域との連携について、情報交換の場や先駆的な事例を共有する機会を重ねることで次の展開が見えてくる中で、今後の進め方を検討している。

会長：事業の課題があれば教えてほしい。

さくさぼ：協働の推進での課題は大きく2つある。1点目は全庁的にさくさぼや協働に対する認知度がもう一つと感じている。協働について、職員研修を行っているがもう一步認知度を上げていきたい。

2点目は協働の促進について、民間の市民活動団体の基盤強化が課題と感じている。佐久地域は、法人格を持たない任意団体、ボランティアベースの活動は豊かな活動があるが、市の委託事業を受ける等の民間の責任あるパートナーとして、活動できる組織基盤がある団体はまだ少ないと感じている。どういう形で市民活動団体の成長をサポートできるのか、運営基盤強化などが課題と感じている。

会長：庁内の認知度が低いということだが事務局としてなにか取組をされているのか。

事務局：毎年、職員を対象とした協働の研修を実施している。また、市と民間との協働の取組みを調査したりしているが、なかなか新規の取組みが出てこないことから、職員の協働に対する認知度を上げるためには、まだまだ研修が必要と感じている。

委員：協働の認識について、市と市民の関心があるテーマを選ぶと会議でも対等な立場で会議に参加できると思う。多くの市民に協働について知ってもらいたいと思う。

委員：今のさくさぼは活気があって利用者も多い。地域の中でもさくさぼの認知度はまだまだ低いと思う。地域とさくさぼが繋がっていくと良いと思う。

委員：区と地域との連携について、来年度は子育てなどのワークショップを小学校区単位で開催してみたら、市民にも広がるし地域で抱えている人も多いと思うので面白いのでは。地域と連携したいのにできないこともあるので、さくさぼで取り組んでもらえればと思う。

委員：さくさぼに個人や少人数の団体も相談できるのか。

さくさぼ：相談や質問はどなたでもできる。地域への展開は、これまで浅間地区や望月地区で交流会を実施した。地域で実施する場合、どこまで入っていくかが難しい。

地域との関わり方について、各地域の課題をさくさぼが解決するのではなく、地域で取り組んでいることをさくさぼが応援するというスタンスをとっている。

委員：さくさぼはとても良い取り組みをしているから、もう少し認知度が上がってほしい。

委員：まちづくり活動支援金について、さくさぼと連携できることの案に周知と伴走支援があった。周知について、市民活動登録団体に案内を出すがあったが現状はどうか。また伴走支援について、継続性を高めるために助成金や企業回りの計画を立てるなど実行をフォローしてあげるような体制がさくさぼにはあるのか。

さくさぼ：市民活動団体に案内は出している。伴走支援について、相談は制限を設けず対応している。現在、登録している市民活動団体は252団体あるため、すべての団体の伴走支援をすることはやりきれないのが現状。また、支援しすぎてしまうことは、市民活動団体の成長を妨げてしまう。支援金の書類を作成できないという相談には応じるが、作ってあげることはしない。その代わりに、資金調達講座の開催などでサポートしている。

委員：支援金の見直しの中で、最初に活用したい団体はハードルを下げていいと思う。また、継続性を求める団体には、さくさぼの講座を必須にするなどあってもいいと思う。

委員：この会議に参加して思ったのは、市をあげてもっと豊かな市になることが目的だと思った。これから市のために、みんなのために何かやりたいという方をサポートするっていうのもこの会議の目的だと思う。種まきという意味でも身近な場所で集まって夢を語ることから始めて、その上で、やり方を教えてくれるさくさぼがあるということを周知していけば良いと思う。

4 連絡事項

5 閉会